



▲町災害対策本部会議

▶住民避難訓練



▶初期消火訓練



▶避難住民などの炊き出し訓練



▲防災資機材取扱い説明



▲AED取扱い訓練

**住民の声**

▼災害はいつ起こるかわかりません。ましてや原子力を身近に感じる河野地区は、災害情報を聞かされたら人ごとは思えません。あわててしまい、災害初期に何をどうしたらいいかわからないのが現状で、平日からの準備、周囲との連携が大事だと思います。子どもや高齢者のことも考え、災害時のマニュアルが作成されているとよいと思うし、これから毎年一度は防災訓練を行うといいですね。実際、災害に合っている地域では痛感していることで、二次災害を引き起こさないためにも、初期の対応が大事だと思います。

（大良区長）

▼災害に対する知識をもってもらうと自警消防隊とタイアップして訓練のチラシを作成、班長さんを通じ、避難訓練の流れを各戸に周知しました。班毎に一次避難場所を決め、二次避難所の公民館へと誘導、公民館では油圧ジャッキや簡易タンクの説明を受けました。当日は天候も悪く参加数を心配しましたが、約百名が訓練に参加、防災に対する意識の高さを感じました。この訓練がもしもの時に生かされると

（鑄物師区長）

# もしもの時に

## 町の防災訓練と原子力

南越前町防災訓練は、災害基本法と町の地域防災計画に基づき、大規模地震（震度5）の発生を想定して行われ、

- △組織の動員訓練
- △災害発生からの避難所の開設及び避難訓練
- △防災行政無線やケーブルテレビなどを使った緊急時通信連絡訓練
- △緊急物資の供給訓練
- △各集落による防災資機材取扱い訓練、初期消火訓練、被災者や要援護者の搬送訓練、AED取扱い訓練

などの訓練を実施しました。

# 備えて

## 防災総合訓練を実施

11月18日、原発事故に備えた県の原子力防災総合訓練が、敦賀市と美浜町、南越前町で行われました。今回の訓練は、日本原子力発電敦賀発電所2号機で、蒸気発生器への給水機能が喪失、炉心が損傷し、放射能が放出されたとの想定で行われ、国や県、対象市町の防災関係者や住民など、115機関と自治体の防災関係者約1500人が参加、予測放射線量が基準に達する前に、住民を避難させる初動時の対応や体の不自由な人などの避難の対応などを確認しました。

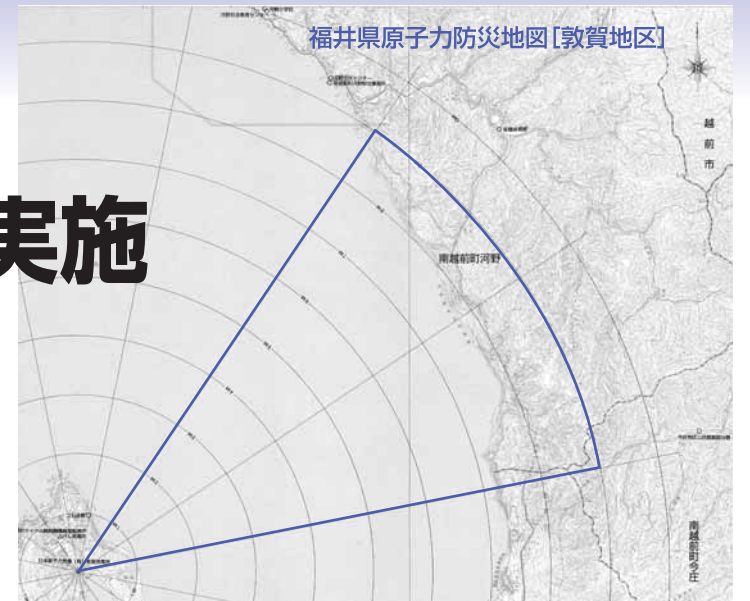
住民避難では、同原発から半径3キロの全方位と北東側約9キロまでの区域を防護対策区域に認定。防護対策区域となった大谷、大良、桜団地の住民らが各集会所に集まり、その後バスで避難所となった河野小学校体育館に移動し、緊急時の動きを確認しました。避難所では、避難住民をチェックするなど運営体制を確認。その後、県や日本原電による放射線の話やヨウ素剤に関する講習会が行われ、参加した住民らは原子力防災に対する理解を深めていました。



▶簡易タンクによる搬送訓練



▶災害時要援護者搬送訓練



▲敦賀原子力防災センターでの災害対策本部全体会議



▲避難所へバスで到着



▲原子力防災総合訓練の避難住民受付